

IJ 5 ۲

IJ 右 **<**" 12 5 左 ٨ 12 ۲ 傾 11 て. ŋ **<**" 5 そ ٨ れ 7" 11 11 ٨ **†**=

畤 IJ <" 12 は 3 全 力 念 ŧ を 出 入 れ 7 3 畤 12 は 力 ŧ

抜

11

7

ŧ

Ξ 私 そ 大 **†**z ٨ ŧ の 5 **†;** 11 街 **†**: 光 ŧ 12 **か**・ は の の らこそ **か**. 反 r 1 射 5 3 角 4 11 見 度 さ 3 を ż ئ 11 3 変 ŧ 光 光を発 ż の か 3 ぁ 強 3 信 11 ŧ L 7 の 11 **か** * 5 ŧ 弱 す 11 ŧ

の

0 3 0 2 0 1 若 現 志 せ 11 和 # ţ Ø せ + 馬区 Ø 끠 ゖ

7

乙 万 + ⊞7 Ø Ш 方 泉 ₩ Ξ 登 貨 3 ₹ ŋ 紙 ₽. 農 ŧ 助 業 佐 訪 ゖ ŧ *]*1[ね マ

Ш

四万十町の光を発信するフリーペーパー

リぐらんと

ます。そんな志和のためにひた 悟やから」と志和地域のために |闘する男性がいます。 地域の 「志和のことなら全てやる覚 助けする「よろず屋」や 「まーくん」という愛 す。集落内のお困り 別の顔もいくつか めるほか、地域の いにも尽力してい の掘り起こし アといった地域 。そんな中 2巡るお助けマン 中延商店 中野正延さん るのでしょうかー 高齢者で小学生も一桁しかいな にまで減少。住民のほとんどが 数が8軒、人口が240人ほど 想されていることもあり、世帯 窪川地域と他地域の交易を支え さんは日々どんな活動をしてい る浸水と津波で甚大な被害が予 の悪さや、南海トラフ地震によ した。ところが、交通アクセス る物流拠点としても栄えていま かつては大敷網でのブリ漁や、 した事情を抱える集落で、中野 い典型的な過疎地域です。こう 志和は太平洋沿岸に位置し、



地域のお助けマン

中野さんの本職に次ぐ定番の中野さんの本職に次ぐ定番のおます。料理の仕出しに始まり、きます。料理の仕出しに始まり、きます。料理の仕出しに始まり、産木の剪定、しょうがの収穫といった農家のお手伝いなど、中野さんが引き受ける仕事は多彩で、どれも志和にとって大切なものです。

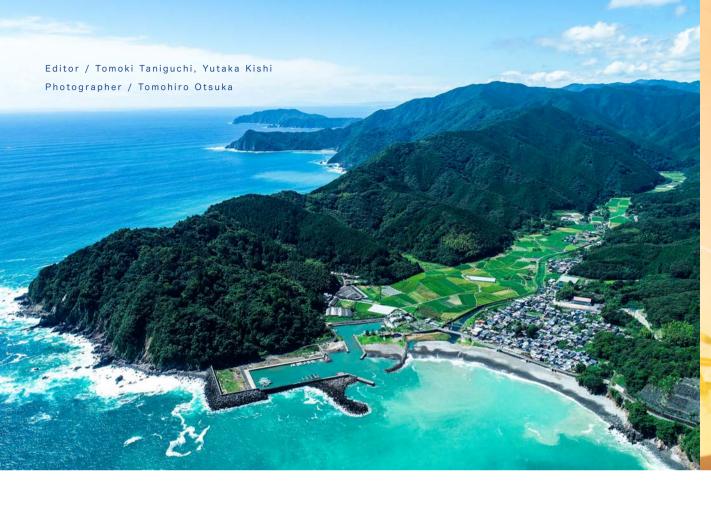
中野さんの民生委員活動について、西谷米美さんにお話を伺いました。西谷さんは、親戚の一人が病気になった際に中野さんは相談しました。中野さんはます。西谷さんは隣にいる中野さんに向かって、「まーくんはお人よし過ぎるがよ。みんながこの人に相談する。何事も」と、深い感謝の気持ちを伝えていました。このとき、中野さんは終い感謝の気持ちを伝えていました。このとき、中野さんは終れる。

うでした。
ち良くないの。ほめられる場所ち良くないの。ほめられる場所

地域社会への貢献も

場内は、笑顔でいっぱいの雰囲 夏と冬に、地域外から多くの観 す。その一つが、志和地域のお わる問題にも取り組んでいま だけではなく、地域全体に関 気に包まれます。 ます。スタッフのモチベーショ 心して準備を進められると言い タッフたちはみな、当日まで安 ダーシップにより、イベントス を務めており、中野さんのリー 祭りの運営です。志和では毎年 んは、この二つのお祭りの役員 と祭りが開催されます。中野さ 光客が集まる花火大会とふるさ ンの高さのためか、お祭りの会 中野さんは、個人のお困り事

中野さんは、志和の観光資



漁師たちからも

志和の基幹産業の一つである 漁業。志和の漁師は全員で8人。 漁業。志和の漁業は、この8人の結束 のもとに成り立っているのです が、この漁業で最も人手を必要 とする時に、中野さんは駆けつ けます。夏の初めに行う昆布の 保全のために、天敵となるウニ の駆除が行われるのに際し、中 野さんもウェットスーツに着替 源の発掘にも尽力しています。 「岩石蘭」の保全活動や「轟の滝」 の体験ツアー化の取り組みなど がそれです。地域資源に光を当 てることで、志和地域に少しで も雇用を創れないかとの思いで 取り組まれているそうです。地 域貢献という観点では、志和峰 から志和集落へ下る生活道路の 除草ボランティア作業にも、毎 年夏と秋、有志の皆さんと取り 組んでいます。

います。 えて志和の海を潜り駆除を手伝

志和の名産である伊勢海老の保全活動では、伐採したスギの 様を海に沈めて、伊勢海老の稚 大どを育てるための住処にします。スギを伐採する際、中野さんは、中心メンバーとして、一 番危険な立木の伐採を率先して でも存在感を発揮する中野さんは、漁師の男たちからも厚い信は、漁師の男たちからも厚い信は、後採したスギの な、漁師の男たちからも厚い信は、漁師の男たちからも厚い信





志和から離れる

小学校のころは優等生だったという中野さん。「勉強も出来たし、家もお店をやっていて周りの子と遊ぶという感覚があまりなかった」と言います。親は仕事で忙しいので、おばあちゃん子だったようです。そんな周囲の人から見守られなるなの人から見守られながら少年期を過ごしたことが、

呼び戻される

年生の時に音楽と出会います。 てほしいと頼まれます。「東京今日の活動につながっているの 東京では、音楽活動に精を出会います。そして中学3 事が出来なくなったので帰郷したとのことです。そして中学3 事が出来なくなったので帰郷したとのことです。そして中学3 事が出来なくなったので帰郷したとのことです。そして中学3 事が出来なくなったので帰郷したとのことです。そして中学3 事が出来なくなったので帰郷したとのことです。そして中学3 事が出来なくなったので帰郷したとのことです。そして中学3 事が出来なくなったので帰郷したとのことです。そして中学3 事が出来なくなったので帰郷したとのことです。 てほしいと頼まれます。「東京中生の時に音楽と出会います。

悩んだ挙句、翌日は東京行きの 活を送ります。 野さんはしばらくの間、東京牛 をかけたそうです。その後、中 に1~2ヵ月間連絡せず、心配 す。あまりに急なことから両親 飛行機に飛び乗っていたそうで ないか」と誘いを受けたのです。 ンを受けに行くから、来てくれ が有名になり、「オーディショ で中野さんが上京を決心する一 から、あまり志和には帰らな 大事が起きます。友人のバンド かったそうです。そして、ここ 品会社に就職しますが、この時 高校卒業後に、高知市内の食

東京では、音楽活動は料を出す一方、水道設備工事や型枠大工で生計を立てながら結婚もされ、2人の子宝にも恵まれました。ところが、35歳の時に母親た。ところが、35歳の時に母親た。ところが、35歳の時に母親た。ところが、50次の子宝にも恵って帰りとの決断を下しました。そうしとの決断を下しました。そうしとの決断を下しました。そうした。

志和に戻った当初は、浦島太郎状態だったそうです。考えて のると、高校卒業後に上京、大 人になって志和に足を踏み入れ たのはほぼ初めて。志和を離れ て2数年が経過していました。 言和を離れたがゆえに故郷を客 は視できるようになった中野さ



いろな提案を地域に試みますが、「地域を捨てて出て行ったが、「地域を捨てて出て行ったが、「地域を捨てて出て行ったが、「地域を捨てて出て行ったが、「地域を捨てて出て行ったが、「地域を捨てるとも幾度が、「地域を

手ごたえと抱負

地域の人たちになかなか受け 入れてもらえなかった中野さん ですが、その大きな壁を打ち 破ったのは、よろず屋などを通 じて地域の人たちのために汗を だす、ひたむきな姿でした。中 野さんはこう語ります。「10年 くらいかけて集落からようやく 信頼されるようになって、今に 至るって感じやね。気持ちが伝 わってきたってことやな」

更に、そうやって志和の住民の皆さんと関わる中で見えてきたことがあると言います。「い思う。みなが仲良くやっていけ思う。みなが仲良くやっていける集落になれば、何か出来るのではないかと思う。志和はその段階に来ていると思う」。次に自分がなすべき事は、「おいらがやるのではなくて、つなげることかな」と話されます。志和の人材育成にも熱心で、「まずの人材育成にも熱心で、「まずな、どこに出しても恥ずかしく



らやね」と熱く語ります。人を作るのが務めかな。そこかない人材を育てたい。心のある

むすび

についても注目し続けていきた ら、中野さんと志和地域の今後 さんを活動のお手本にしなが の人こそ、地域おこしの先達や 地域おこし協力隊から見て、「こ ているのだと思います。私たち の照れ屋さん。そのように装う は、実は温かいハートの持ち主 快に笑います。そんな中野さん も「ヒャッヒャッヒャッ」と豪 んですが、人と話す時はいつ いと思います。 たち地域おこし協力隊は、中野 ね!」と感心させられます。私 ことで周りが和むように茶化し つきづらそうにも見える中野さ 見、男らしい面構えで、とっ



プロフィール

四万十町志和在住中野正延さん、昭和42年生まれ。

本職は中延商店の仕出し業。志和住民のお困り事を手助けするよろず屋も手掛ける。民生児童委員、志和地域活性化協議会副会長、消防団班長など志和地域の要職を務める。

Editor / Aoi Takase Photographer / Tomohiro Otsuka 泉貸紙を訪ねて 和紙職人 平野直人さん なのでしょうか。 貸紙とは、一体どのようなもの 紙に興味がありました。十川泉 がきらりと光っていました。 受け継ぐ1人の青年がいます。 ジ393』で作られたブローチ でした。トレードマークの黒の よろしくお願いします」と笑顔 大井川地区。ここに伝統文化を お話を伺っていたため十川泉貸 である延子さんからよく和紙の に住んでおり、直人さんの母親 ベストに、窪川にある『オレン で私達を出迎えてくれた直人さ 野直人さんがその方です。 んはとてもオシャレな職人さん -川泉貸紙という和紙職人の平 四万十川の清流が傍を流れる 筆者は、直人さんと同じ地区 作業場を訪ねると、「今日は

様々な柄の和紙が並べられてい 作業場に足を踏み入れると、

うでした ような作品ばかりで、直人さん れを見てもほっこり温かくなる もの、柿渋で染めたもの、ふん の優しい人柄が伝わってくるよ わり優しい桃色のものなど、ど たもので、もみじの葉が入った これらは全て直人さんが染め

も全て手作業で行われます。 切使用せず、どんなに寒い時 直人さんが作る和紙は機械を

たそうです。 幼い頃から母の実家で行われて う言ってはにかむ直人さんは 紙職人の道を歩むことを決意し て育ち、中学3年生の頃には和 いた和紙作りの現場をずっと見 「機械が苦手ながですよ」。そ

を果たしました。 の頃に和紙職人としてデビュー 周囲の温かな支援の下、18歳

> 産業祭にも出店し、販売されて 高知県内の西部地区で行われる 中学校の卒業証書として使用さ 泉貸紙は、四万十町内多数の小 ことも可能だそうです。 います。作業場で直に購入する ある『紙舗直』へ出荷されたり、 れているほか、東京都文京区に 現在直人さんが手掛ける十川



は後継者不足の問題等から減少 ますが、現在国内の楮の生産量 原材料としても多く使われてい 楮は十川泉貸紙以外の和紙の

楮も自ら栽培 原材料である

増えていったそうです。 えると後は自然発生的に次々と 線を向けると、楮が青々と沢山 ているそうです。家の周りに視 楮はなんと、自らの手で栽培し 手で植えたのではなく、1本植 生えていました。これらは全て 川泉貨紙ですが、原材料となる 沢山の工程を経て完成する十

この場所に植え替えてもらった ので、その施設が移転する際 楮がずらっと並んでいました。 んですよ」。そう言われ、案内 元々、福祉施設に生えていたも された場所に行くと、沢山の 「こことは別に、楮畑がある



中、楮の生産から加工まで一貫 れているとのことです。そんな 和紙には安価な外国産が使用さ して行っています。 の一途を辿っています。 そのため機械で大量生産する

がります。 をすくと、4枚の和紙が出来上 れる平べったい道具を使って紙 してふやかします。簾桁と呼ば す。楮に付く小さなゴミを丁寧 に取り除き、さらに水に一晩浸 て直人さん1人の手で行われま 作業は楮の刈り取り以外は全

十川泉貨紙の特徴

だわりと愛情があるからこそ、 変なら少しでも機械を入れて楽 好きなんです」。直人さんのこ ました。「機械より、手作業が 声が聞こえてきそうですが、直 になれば良いのに…」。そんな もあるそうです。「こんなに大 日もあり、作業が進まないこと 候によってはなかなか乾かない 作業は天候に左右され、晴れて 和紙に分厚く仕上げます。干す 折りたたむことで、合計2枚の 枚の和紙ができたとき、道具を るのだと思いました。 十川泉貸紙は人々に愛されてい いれば1日で乾くのですが、天 川泉貸紙の最大の特徴です。4 せん。『2枚で1枚』これが十 人さんは笑顔でこう答えてくれ 後は干して完成?ではありま

イラストを指しながら)のを和の和紙を作ってみました。「模様入りを伺ってみました。「模様入りを伺ってみました。」



紙に写せたら良いですよね。」

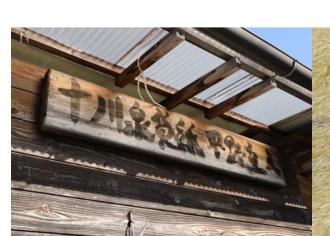
実現できたときは、是非また何いたいと思いながら、私達はしか職人がいない泉貸紙は、まだまだ面白く発展していきそうです。

てはいかがでしょうか。



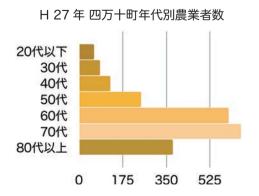
十川泉貨紙

紙漉き体験: 1 人 2,000 円(お土産付き) 所在地 : 高岡郡四万十町大井川 1509 連絡先 : 090-6280-9766





右のグラフを見ると、農業者の多くが60歳以上であることは一目瞭然で、その割合は4分の3にも上ります。その半面、20代と30代は7%とわずかです。そこで今回は、若手農業者の小原和彦さん(34歳)を取材させていただきました。



四万十町根々崎。「農業に励いる人はたくさんいます。が、いる人はたくさんいます。が、いるで注目すべきは「若い」というところで注目すべきは「若い」と

わからないと、

和彦さんは、おじいさんの世代から「小原農園」として経営していた農家に生まれました。 小さい頃から毎日農作業をする 家族を見ていた和彦さんは、そ の大変さをよく知っています。 その頃はパイロットに憧れてい て、農業をやりたいという思い はあまりなかったと言います。

和彦さんが高校生の頃、農業関連の会社が学校へきて講演会を開きました。講演会の内容は、を開きました。講演会の内容は、や農業をどんどん拡大していくというもの。その話を聞いた和というもの。その話を聞いた和きさんは挑戦しがいのある農業だ興味をそそられ、農業へ対する意識がこれまでとは逆に、良る意識がこれまでとは逆に、良い方向へ変わったそうです。

で農業をするお父さんに「一緒同組合で働いていましたが、家同組合を働いていましたが、家

で、新しい技術や方法があれば、ではない。」変化する時代の中

農業を始めました。 に農業をやらないから、22歳で ない」という思いから、22歳で ない」という思いから、22歳で

そして、今年(平成30年)の 4月、農業を始めてから12年、 4月、農業を始めてから12年、 34歳で「株式会社四万十の恵 は奥さんの真美さんや弟さんを は奥さんの真美さんや弟さんを は奥さんの真美さんや弟さんを は奥さんの趣味で始まった多肉植 業さんの趣味で始まったり相

こだわりの生姜

に理にかなっていて、全然無駄 う言います。「昔の農業は本当 由がありました。和彦さんはこ れでも手間をかけるのには、理 われることがあるそうです。そ の作業をやっているのか」と言 もいいんじゃないか」「まだそ くて手間がかかるから、省いて らのやり方だと)やることが多 るため、周りからは「(昔なが がらのやり方で生姜を作ってい があるからです。ここでは昔な というのは、やり方にこだわり とだそうです。「手を抜かない」 り返し口酸っぱく言っているこ さんが従業員のみなさんに、繰 ない」ことです。これは、和彦 が仕事をするうえで大切にして どこが違うか、それは和彦さん う、こだわりのある生姜です。 の生姜。ほかの生姜とは一味違 いる、「作るものには手を抜か 和彦さんが作っているメイン

と言います。と言います。



受け入れとその 担 1 手 \dot{o} 思

U

と考えています。 らいたい、農業をやってほしい 代が主力で、 町内の農業従事者は60代から80 くなります。 を考えると農業者はぐっと少な 化の進行が深刻なので、 上にも及びます。過疎化・高齢 未来を考え、今から若い世代の 人たちに農業に興味を持っても 冒頭のグラフにあるように、 和彦さんは農業の その割合は75%以 10年後

業に挑戦する人は不安が多いと らい売れるのかなど、初めて農 思い通りに野菜が作れたとして す。また、育てた野菜が上手に 始めるとなると、 味がある、 美味しく育つとは限りません。 それなりに初期費用もかかりま という担い手を、受け入れたい と考えました。本格的に農業を そこで和彦さんは、農業に興 どこに販売するか、どのく 実際にやってみたい 機械が必要で

思います。色々な不安があり、

少しでも農業者を増やしたいと 和彦さんは考えています。 けるも良し。そのようにして、 業するまでの技術などを身に付 分で起業したい方であれば、 のままずっと働いても良し、 みで農業を学ぶことができま 始める一歩が踏み出せない。 ても大切な事だと思います。 んな人がいれば、 実際にやってみることはと 株四万十の恵 自 そ



そ

いことだと思いました。

多肉植物は小さな鉢のもののイ 見ていてとても癒されました。 した。鉢を大きくすればするほ た大きな多肉植物があり驚きま メージが強く、大きな鉢に入っ あり、初めて見る植物ばかりで には数えきれないほどの種類が 存在は知っているものの、 ていただきました。多肉植物の た際には、多肉植物を拝見させ 奥さんの真美さんとお会いし そこ

取 材を通して

将来の農業を思い頑張っている 姿は、とても誇らしく素晴らし んな中、まだ若い和彦さんが、 さん出てくるかと思います。そ とにより起こりうる問題がたく 格高騰など、農業者数が減るこ ますが、野菜の鮮度の低下や価 などで野菜を購入して食べてい てです。私たちは普段スーパー 業者の人手不足の深刻さについ き、一番強く感じたことは、農 私が今回取材をさせていただ 農業に関して何の知識もない

> でも興味関心も持った人が増え 業の印象が良くなったり、 ど大きく成長するそうです。 てくれることを願っています。 この記事を読んで下さり、



株式会社 四万十の恵み

所在地:高岡郡四万十町根々崎 46

連絡先:0880-29-6130

Editor / Mayu Kase

Photographer / Tomohiro Otsuka

04 四第4回

四万十町の山登り第4回佐川山

旧大正町の中心街より439

皆さんに紹介すべく結成され

た「協力隊登山部」。今回は

ろが今回のスタート地点です。さらに林道を約10分登ったとこ落。めがね橋に繋がる道を通り、進んだところにある下津井集進のではない。

は、かつて営林署の佐川製品事がの天然林を有したこの場所に跡地に到着しました。モミやツ進むこと約1時間。旧佐川集落進むこと約1時間。旧佐川集落

史を感じることができました。をしていたのだという息吹と歴おり、人々がかつてそこで生活

ビール瓶や生活用品も散乱して

ま所がありました。そこには、 共同の炊事場や大浴場が完備されていたそうです。ほかにもトイレや捕獲した魚を保存するための池も確認することができまめの池も確認することができました。この事業所と下津井線をもぶ41kmが、県内最後の森林航道です。最盛期には60世帯約載道です。最盛期には60世帯約が今もなお残っている集落内の森林軌道沿いには、家が連なっていた跡があり、手積みの石垣なども残存していました。また、



すが、水が多いと迫力満点だそ たときは水量が少なかったので 聞こえてきて、気温も低いよう 面があり、常に神経を張りなが ながら進みました。道なき道を 道中はなかなか険しく、老朽化 集落跡地から滝までは約1時間 隊の先輩方が同じ場所を訪れて に感じました。私たちが到着し で来ると、水の流れ落ちる音が ら歩き続けました。滝の近くま 行くので何度か足を取られる場 め、場所によっては遠回りをし かあり、危険すぎて渡れないた で橋が崩壊したところが何箇所 ションにもよりますが、旧佐川 にある滝を目指すことになりま いるのですが、今回はさらに奥 した。道順やその時のコンディ 実は、昨年も地域おこし協力 1時間3分かかります。その



うです。滝の名前は「千間滝」。 目の前まで行ってみると、けっ こうな高さがありました。道の りは大変でしたが、その分たど り着いたときの達成感は格別で した。

今回は、山登りではなく地域の遺産を見に行くことが目的でした。旧佐川集落以外にもうひとつ別の集落もあったということなので、機会があったら是非となので、機会があったら是非

最後にガイドをしてくださっ の度はお忙しい中、本当にあり の度はお忙しい中、本当にあり







協 大正駅前にぎわい 力 隊 便 Ŋ 拠

点

みいただけます。この秋からは、 川周辺のサイクリングもお楽し

お子様用の小さな自転車も仲間

駅前にぎわい拠点です。 出迎えしているところが、 い O P E N J R 土佐大正駅の 木 彫 の看板を掲げてお りの カッ 真 パが 向 か

だけます。 円コーヒーや、 す。セルフサービス式の100 中にお立ち寄りいただいていま ち時間や、近隣の方のお散歩途 やイスが並び、バス・電車の待 せずに待ち時間を過ごしていた 誌も置いてありますので、退屈 ます。拠点の中には丸テーブル 地域おこし協力隊が運営してい 信場所として、四万十町大正の 主に観光案内・観光情報の発 観光・移住の雑

ンと可愛らしいカラーが人気の このほか、シンプルなデザイ

リングマップを片手に、四万十

ます。大正町内や近郊のサイク

レンタサイクルもご用意してい

もご協力ください。デザインも で、観光客の皆さんへの周知に も綺麗でおすすめですよ。 大人用と揃いなので、自転車と いただけるようになりましたの 人りしました。親子で、ご家族 緒に写真撮影していただいて レンタサイクルをお楽しみ

も認定されています。レンタサ 様は更に大正地域の風景のポス ズ・シルバー・ゴールドのお客 ヒーを1杯サービス(ブロン イクルを利用されると、コー 龍馬パスポートの参加施設に



気軽にお立ち寄りいただければ だけるよう、町民の皆さんにも、 めく四万十川、 たします。 に、大勢の観光客に訪れていた 大正駅がある四万十町大正地域 四季折々の山並みと、 光きら

と思います。 風情豊かな土佐

Editor / Tomoki Taniguchi, Yutaka Kishi, Mayu Kase, Ryuichiro Kozawa, Saya Kamino Photo&Design / Tomohiro Otsuka

Publisher / 四万十町地域おこし協力隊 786-0013 高知県高岡郡四万十町琴平町 1-1 TEL: 0880-22-3161

URL: http://shimantocho-chiikiokoshi.jp/ Date / 平成30年12月発行

トカードを1枚プレゼント)い